

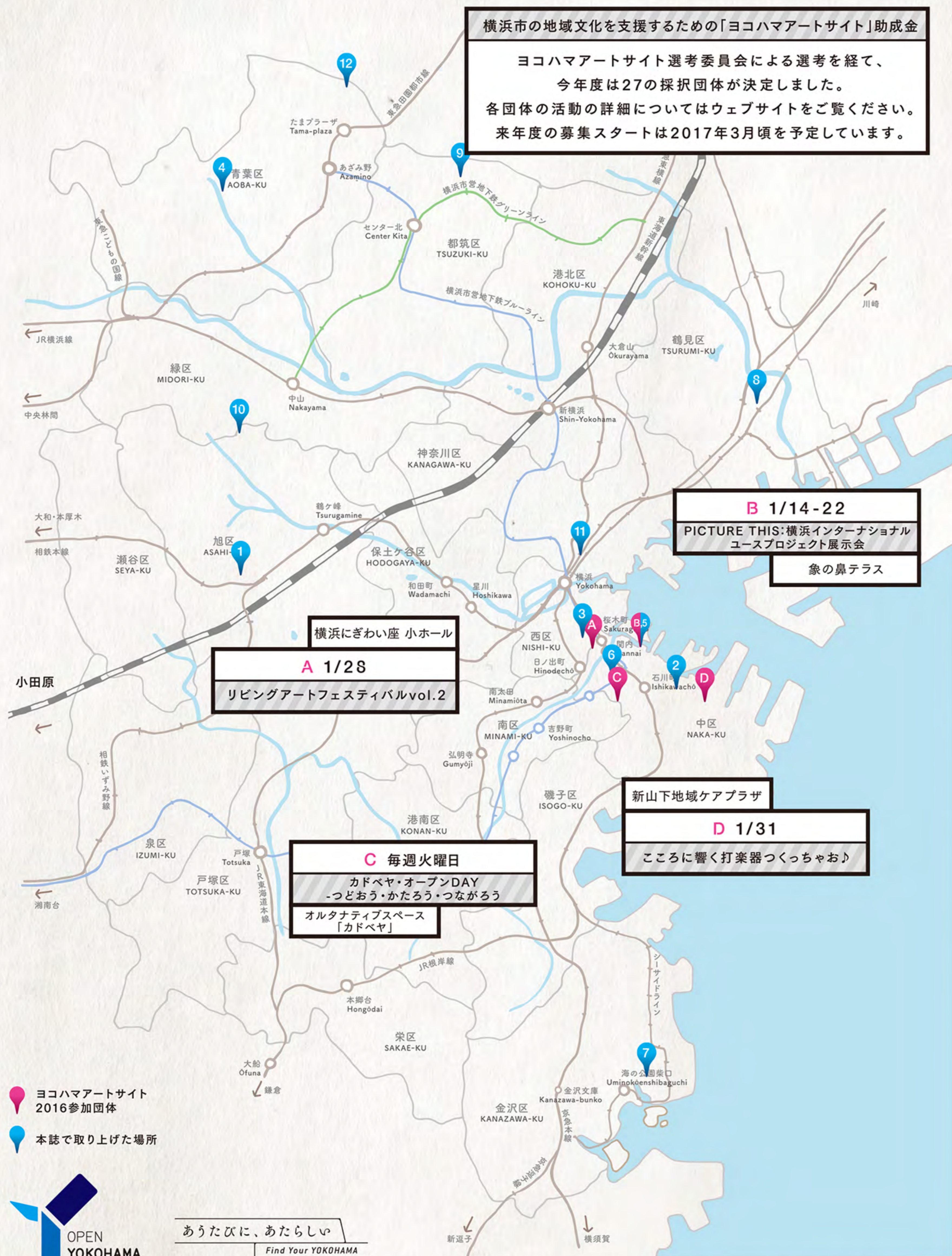
# YOKOHAMA ARTSITE

ヨコハマアートサイト おでかけMAP

横浜市の地域文化をサポートするヨコハマアートサイト2016参加団体による  
12月~1月のイベントをピックアップ。ぜひ、おでかけの予定に加えてほしいものばかりです。

横浜市の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

ヨコハマアートサイト選考委員会による選考を経て、  
今年度は27の採択団体が決定しました。  
各団体の活動の詳細についてはウェブサイトをご覧ください。  
来年度の募集スタートは2017年3月頃を予定しています。



**A 1/28**  
横浜にぎわい座 小ホール  
リビングアートフェスティバルvol.2

**B 1/14-22**  
PICTURE THIS:横浜国際ショナル  
ユースプロジェクト展示会  
象の鼻テラス

**C 毎週火曜日**  
カドベヤ・オープンDAY  
-つどおう・かたろう・つなごろう  
オルタナティブスペース  
「カドベヤ」

**D 1/31**  
新山下地域ケアプラザ  
こころに響く打楽器つくっちゃおう

ヨコハマアートサイト  
2016参加団体  
本誌で取り上げた場所



あうたびに、あたらしい  
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら <http://www.y-artsite.org/>

ヨコハマアートサイト

# ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する



中区・山手ゲート座「子育ては爆発だあ」

2016  
Vol. 010

「特集 子どもが主役」

2

### 劇場で 子どもが騒いで 遊び尽くす

元町・中華街駅からアメリカ山公園を抜けた少し先にある岩崎博物館。その地下に設置された山手ゲート座は、毎月第3木曜日になると数多くの乳幼児と保護者がやってくる。「子育ては爆発だぁ(以下、コバク)」の参加者だ。コバクは2008年に音楽家・中ムラサトコさんが主体となって企画した親子ワークショップ。親子が一緒になって、リズムを楽しみながら、紙をちぎり、大きな声を上げ、思うがままに走り回る。

「ゲートというのは『Gaiety(陽気な)』という意味なんです。だから、コバクはゲート座の名前に合った企画だと思います」と語るのは、長年に渡りコバクを運営する小池成樹さんだ。「子どもに、普段とは違うはしゃぎまくるお母さんの姿も見せてあげたい。ここは劇場ですから、どんなに散らかしても走り回っても怒られることはありません」。プログラムは、造形やダンス、音楽など幅広い。参加者は毎回応募制なので、自分が気になる回だけ申し込む自由さも人気だ。「子どもは2~3年で入れ替わってしまうけれど、根気強く継続していくことが必要だと思います」。陽気な子どもたちが、今日も劇場を駆け回る。



3

### アートがつなぐ 母と子の 信頼関係

横浜市内に0才から3才までの子どもへ向けた「ベイビーシアター」を見る場を作っているのが横浜こどものひろばが行う「0123」企画だ。こちらは、会員制度をとっており、企画の運営や提案なども会員自身が行う。

「母と子の間に信頼関係を築いて欲しい。そのためには、同じ作品を見て、一緒に驚いたり笑ったりするのが一番なんです。母子間では、遊びの時間をシェアするだけでは足りなくて、お互いの感覚をチューニングすることが大切だと思います」と話すのは、事務局長の大原淳司さんと大丸はるみさん。読み聞かせワークショップでは、本を見ずに走る子どもを、危険がないように会員のスタッフがそっと見守っている。同じ子どもを育てた親同士、参加したお母さんも安心して様子だ。

一方、読み聞かせを聴き、じっと絵本を見つめている子どももいる。アーティストは、ただ読み聞かせをするだけでなく、子どもたちと一緒に楽しもう楽しもうと企画を進めていく。家から会場へ行き、見知った会員同士で同じものを見る……こうした一連の流れも、アートの一部なのだろう。

4

### 見慣れた壁が ジャングルや 五線譜に

青葉区にある児童養護施設・神奈川県立中里学園で版画家・澤岡泰子さんを中心としたアートワークショップが実施されるようになって16年が経つ。

自分たちの生活空間である食堂や浴室などを、子どもたちが自分の手で彩る「終わりのない壁画ワークショップ」だ。まず初めに手掛けたのは食堂。自分が普段座っている席の正面、いつも眺めている壁に、それぞれがテーマにあわせた絵を描いていった。カラフルな虹や、大きなフルーツ。ひょろっと長く伸びた線は、流しそうめんの思い出だ。

耐震工事のため壁画が撤去された後も、クリスマスや七夕といった季節のイベントに絡めた作品づくりや、オリジナルTシャツづくりなど活動は続いてきた。

中里学園は70年の歴史に幕を下ろすが、「アートの原点は、自分で選択すること。次の色は赤にするか、青にするか。作品づくりを通して、自分で感じ、考えられる子に育ててほしいと思って続けてきました」というアーティストの思いは未来へと続いていく。



P.3左 中区・山手ゲート座  
「子育ては爆発だぁ」  
P.3中 西区・横浜こどものひろば  
P.3右 澤岡泰子さん

ヨコハマ  
アートサイト  
ラウンジ  
Vol.10-12

## 地域とアートを考える 連続シンポジウム



7

### ものづくり〜工場とアートワークの関わり〜

金沢区の印刷会社を会場としたアーティストネットワーク+コンパスとの「ものづくり〜工場とアートワークの関わり〜」では、工場地域の魅力を発信するためのさまざまな工夫についてのパネルディスカッション。アーティストの目には廃材も宝に見える、という話が印象的でした。

6

### 子どもがアートと育つ場所

「子どもがアートと育つ場所」では、NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあとと、不登校児童生徒自立支援などを行うフリースペースみなみの活動を紹介。アートや体験活動を交流の機会として捉えた取組の紹介を受け、参加者も自身の体験談を語りだすなど、座談会のような雰囲気でした。

5

### 海外における障害とアートの今を学ぶ

NPO 法人スローレーベルとの「海外における障害とアートの今を学ぶ」では、アジア諸国での障害に関わる取組みをめぐる旅を終えたゲストによるトークセッションを行いました。福祉や支援の考え方も国によってさまざま。改めて障害を取り巻く環境について思いを巡らせることになりました。

まちとアートを考える場としてのアートサイトラウンジ。ヨコハマアートサイト2016 参加団体とタッグを組み、毎回異なるテーマで開催しました。



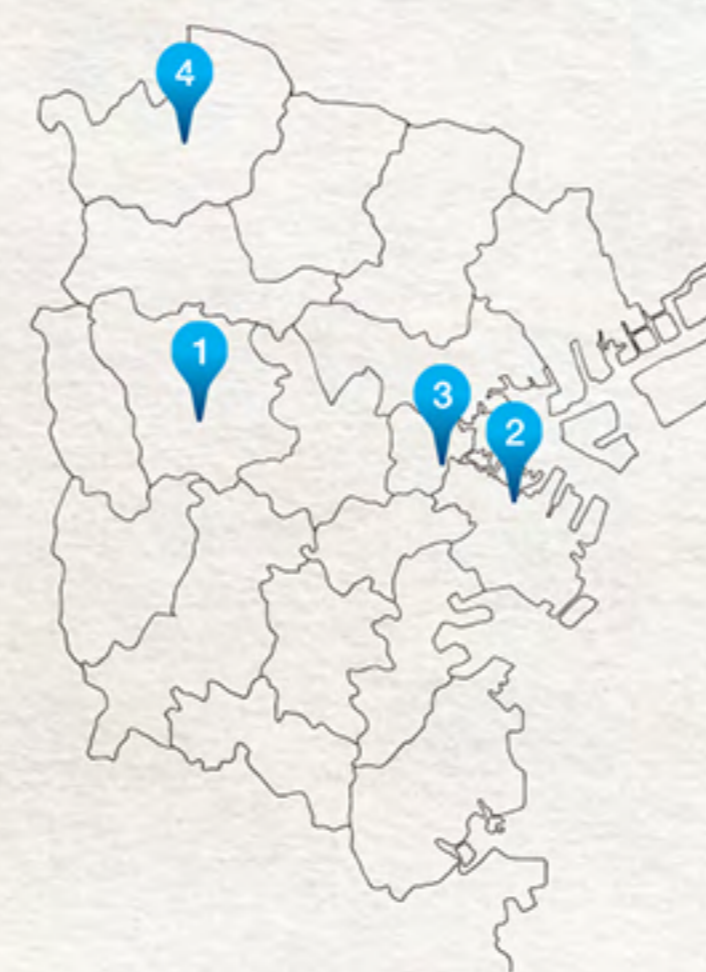
アートサイトラウンジvol.12「ものづくり〜工場とアートワークの関わり〜」  
【会場】山陽印刷社屋(金沢区福浦)【ゲスト】秋山桂子(山陽印刷代表取締役/アーティストネットワーク+コンパス代表)/坪倉伸明(坪倉興業代表取締役)/田中清隆(アーティスト/アーティストネットワーク+コンパスプロデューサー)/本多竜太(関東プリンテック常務取締役/PIAフェスタ実行委員メインプロデューサー)【主催】アーティストネットワーク+コンパス/ヨコハマアートサイト事務局



アートサイトラウンジvol.11「子どもがアートと育つ場所」  
【会場】横浜市技能文化会館(中区万代町)【ゲスト】奥田宏明(教育支援協会南関東 フリースペースみなみ)/半谷麻意子(打楽器コンサートグループ・あしあと)/池野ひとみ(打楽器コンサートグループ・あしあと)【主催】ヨコハマアートサイト事務局



アートサイトラウンジvol.10  
「海外における障害とアートの今を学ぶ」  
【会場】象の鼻テラス(中区海岸通)【ゲスト】田中未知子(瀬戸内サーカスファクトリー代表)/難波祐子(国際交流基金文化事業部企画役)/栗栖良依(ヨコハマ・パトリエンナーレ総合ディレクター)【主催】スローレーベル/ヨコハマアートサイト事務局



あの子にも、その子にも  
はじめてのアートを  
届けたいから



1  
聴くだけじゃない  
コンサートで  
大人も子どもも楽しもう

机の上にずらりと並んだビーズや毛糸、モール、マスキングテープ。「どれにする?」と保護者が子どもに語りかけながらひとつをつまんで見せている。そうかと思うと、子ども以上に熱心な顔でスパンコールを選ぶ保護者もいる。楽器づくりワークショップでの一コマだ。

ヨコハマアートサイト2016では参加団体の半数以上が、子どもを対象とした取組を行っている。「打楽器コンサートグループ・あし

あと」もそのひとつ。子どもに生の音楽を届けたい、という思いで楽器づくりワークショップと参加型コンサートを行ってきた。

市内各地をまわるうちに、どんな子どもにも音楽を届けに行きたいと考えるようになり、児童福祉施設との関係を築いていく中で、目線が子どもから親へと向いていったと言う。「もっと根本的なところに触れないといけないと思ったんです。子育て中の人たちがコンサートを口実にして家の外に出たり、集まったりできる場をつくりたかった」と話すのは、奏者のほんが半谷麻意子さん。

そんな中、ある一人の保護者からの要望で、旭区・神奈川県ライトセンターでの実施が決まった。中心となっているのは、視覚障害児とその家族をサポートする「ひよこの会」。子どものケアと同時に、保護者のケアも重視している。親子が語り合いながら、触覚と聴覚を生かして楽しむこの企画は、まさにうってつけだ。

「特別な技術がなくても音が出せるのが打楽器のいいところ」という半谷さんの言葉通り、この日も、つくったばかりのマラカスで、めいめいが思うままに合奏に加わった。



右/P.2 旭区・神奈川県ライトセンター「こころに響く打楽器作っちゃおう」

## 8 横浜の「多文化共生」 ふるさとが違う人々を つなぐアートの場所

柏木華奈さん  
(鶴見区民文化センターサルビアホール)

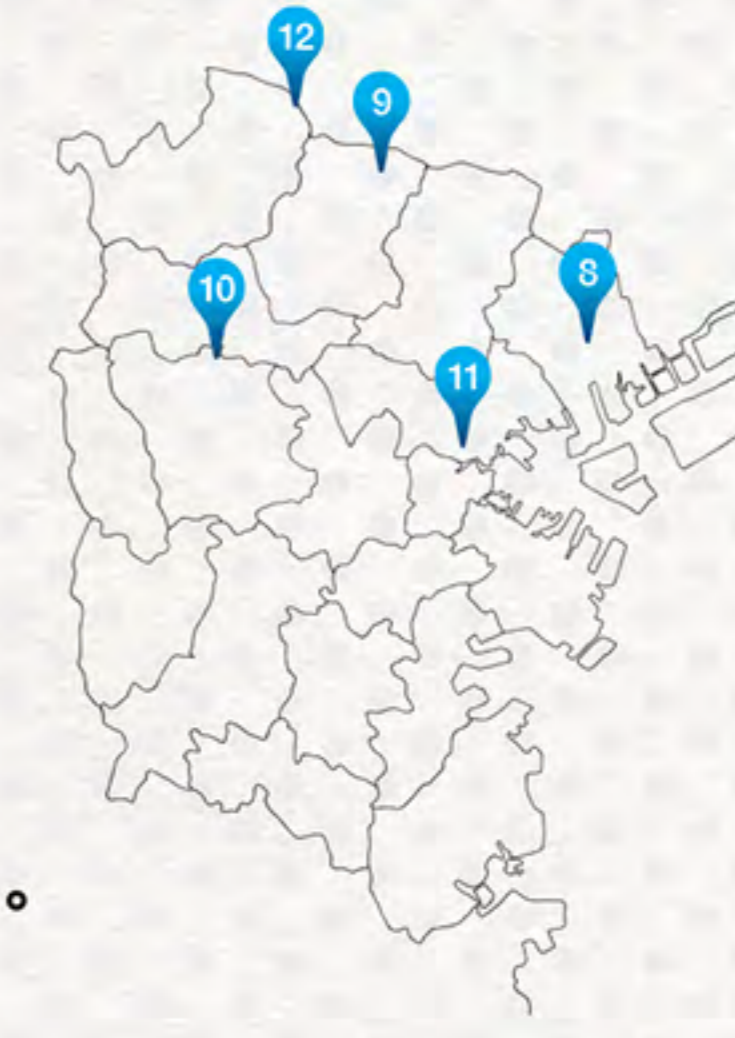
私がサルビアホールにやって来たのは、今から2年半前なんです。それまでは、小田原市の植物公園でイベント担当をしていました。鶴見はいわゆる横浜のイメージとはちょっと違う感じがします。港町・ヨコハマより、庶民的な雰囲気かもしれません。

鶴見の中でアートが活発な場所だと、サルビアホールから直近の商店街、鶴見銀座商店街。ここは毎月最終土曜日に「つるぎんドット来〜い〜」というイベントが開催されていて、路上ライブや季節の行事にちなんだ催しを行っています。また、先日行われた「鶴見そーらんフェスティバル」には、アトラクションへの出演者として、プラスチックサンブルのアーティストを紹介するといったお手伝いを行いました。これは、当館で行っている「サルビア・アーティストバンク」という事業の一環で、サルビアホールで募集・選定したアーティストを区民の皆様に紹介し、当館でマネジメントを行うという取組です。アーティスト自身も、普段のお客様とは違う方々と接することで、



地域の中で鍛えられていく側面があると思います。また、鶴見には豊作と子孫繁栄を願う「鶴見の田祭り」や横浜市無形民俗文化財に指定されている「蛇も蚊も祭り」といった特徴的なお祭りが多く、区民の皆様も大勢参加しているんですね。鶴見区は地域でやっているイベントに興味があって、アクトイブな人が多いイメージです。お祭りに出るのが好きな方もたくさんいらっしゃいます。それと、外国の方が多く、「多文化共生のまち」というのは大きな特徴でしょうね。特に、中通り商店街はブラジル移民、沖縄出身の方の多いまちでもあり、異なる文化を持つ人々が混在して生活する場です。今年10月には、日本とブラジル両国のさらなる相互理解を目的とした「ブラジルWEEK」(つるぎみ2016)という区主催のイベントが開催され、鶴見区としても多国籍・多文化共生は大きなテーマとして扱っています。サルビアホールをご利用いただいているブラジル・沖縄の方も多いため、そうした方々を見ていると、ブラジルにはブラジル、中国には中国、韓国、フィリピン……と国別にコミュニティが形成されていて、やはり言語の違いという壁を感じます。また、沖縄の方のコミュニティも確立されている感じがしますね。来年「ザ・ヤングアメリカンズ ジャパンツアー2017HARU」というワークショップを行うのですが、多くの反響を頂き、こうした交流のきっかけが求められているのだと感じました。私たちが異なるさまざまなコミュニティの間にあって、文化の違う人々の交流を繋げていければいいなと思うんです。アートは言葉の壁を超えられると思っています。

## 事務局うろうろ日記



ヨコハマアートサイト事務局は、  
今日も、横浜市内の  
あっちこっちへうろうろしています。

9 10月1日(土)

北山田拠点あ・くにて、「アーモンド・凸凹コミュニティアート・プロジェクト」のアートワークショップに参加。パーツを組み合わせて、オリジナルアーティストブックを作るというもの。イラストを、はさみで切りながら、黙々と物語を考える。久しぶりの工作に時間を忘れて没頭した。男性の参加者も多い。



11 11月2日(水)

反町・高島山トンネルにて神奈川県魅力さかせ隊による「みんなのトンネルプロジェクト」プレワークショップ。かつての鉄道トンネルの壁に、電車が通る映像を投影すると子どもたちから歓声上がる。その後、クレヨンで自分たちの住まわちを描いた。11月27日のイベント当日はトンネルの電気も消え、また違った雰囲気になりそうだ。



10 10月23日(日)

GROUP創造と森の声による森ラボ・クローゼイングイベントに参加。横浜動物の森公園予定地を会場とした「横浜の森美術展」は今年で9年目。森の精や木の枝でできたはしご、大きな恐竜など、さまざまな作品が小さな森と調和している。その後自然のなかの音楽ライブ。スティールパンの音が秋空に吸い込まれる。



12 11月3日(木)

青葉区・WISE Living Labで、たまプラー座まちなかパフォーマンスプロジェクトによるメイクアップワークショップに参加。年末年始のパーティーやハロウィンイベントでも使えるイベントメイクを学ぶ。老若男女問わず、自由なアイデアを実施。ここでの経験が11月20日に行われた第4回まちなかパフォーマンス「BAMBOOOM」へとつながった。



## ヨコハマ アートサイトとは

横浜市地域文化サポート事業。地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

## 事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局  
(STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団)  
〒220-0004 横浜市西区北幸  
1-11-15 横浜STビル 208  
(NPO法人STスポット横浜  
地域連携事業部 内)  
TEL:045-325-0410  
FAX:045-325-0414  
WEB: <http://y-artsite.org>  
MAIL: [office@y-artsite.org](mailto:office@y-artsite.org)

@Y\_Artsite

ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

## 季刊ヨコハマアートサイト Vol.010

発行 ヨコハマアートサイト事務局  
編集 NPO法人STスポット横浜  
テキスト 小川智紀 池田友実  
沖崎美海  
デザイン 相澤事務所  
撮影 福井裕子  
印刷・製本 合資会社 三島印刷所  
発行日 2016年12月28日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしております。